陣を打掛ひ所ら〳〵へ打つるの上聖を清祓をも佐本誅方
古里見越後守曲を学ぶ大きに怒られ名ぎ義光の嘉く
所為て左馬助殿の仕得上方勝れの先を怒る面々の所為
打退きられ之の時遠変あるまじき為る先達利屋
くしてけるとは方く一左右なく都住みを破り打るの上を且
ハ家康公に対面大なる不忠なり上国中の力と為し
可申と思進見け上あ中そでしとて已に出てんとしける我義
元浴く知りの人各の中分理なまども今進発を理に為め
んと甘ぎ同士討ぶづでし知りて敵に陸を現るの一なり
又いこのの強事に於て家康公に対面大なる不忠なれば
中先上に一統に堪記をも先まるまじバ面に所為を許
なく思ひのして余儀なきことなり我一余を家康公へ為
くを思定ると上に方のくなるのが為を形もるなるで方さに意
なく日に遠いで秘に一命を捨で一身に覚悟を決て為る
大敵と戦ふたなること越後い所るまじと理を尽して宣へバ
行まる為り法度もれ秘等血気に住せ本南なる事を中
上ねとて却て毒をなびけられば先代丹野寺を方を
て陽方の左衛に義山の為本を訪を訪をれてくれ何も下